



クルマが人との出会いを作り 人の縁がクルマを引き寄せる

「合縁奇縁（あいえんきえん）」という四字熟語があるが、今回登場する安本さんとグレイスキャブ・戸田社長の縁は、まさにその通り。イベントのブースというどこにでもある出会いが、無二の親友へと繋がっていく。

■ THANKS: GraceCab Tel 0568-35-7790 <http://gracecab.jp>
■ OWNER: 安本浩之 ■ PHOTO: 浅井岳男 ■ TEXT: 空野稟



安本さんがとくに気に入っているのが、65年型の特徴であるストレートウインドウ。ちなみに内外装はフルオリジナルで、シャンパンゴールドの塗装は当時のまま。「モデルイヤー、コンディション、ボディカラーとすべてが捕った個体に出会えたのは奇跡ですが、このクルマに巡り会えたのは戸田さんのお陰です」と安本さんは語る。



US CUSTOM TREND
アメリカンカスタム最前線

デビルに乗れたのは人との出会いがあったから!

若い時に欲しいクルマがあつても、簡単には手に入れないもの。その後、経済的に余裕ができるとしても良好な個体に出会えず、だがそんな夢の様な話を叶えたのが、デビルに乗る安本さんだ。免許を取得したらスグにクルマを購入するため、高校生の時からバイトを開始。裕福な友人はインパラなどを見ながら左ハンドルのアコードセダンを購入する。だがここで諦めないのが安本さんのスゴいところ。その後も仕事を勵み、20歳にして2000年以降のドゥビルを新車で購入する! このクルマは結婚を機に手放すが、この時に戸田さんと縁が合つ。以来、四半世紀近くに付き合が続いており、安本さんは「かげえのない友」だと断言する。そんな気心知れた関係になったある日、戸田さんは安本さんが長年欲しかった65年型デビルの極上車がアメリカにあるという情報を入手! 早速2人で渡米し、無事購入を果たすが、安本さんは「自分ひとりの力では絶対に手に入れられなかつたですし、しかもアメリカに行つて買つ付けるという貴重な体験をさせてくれた戸田さんには感謝しかないですね」と今でも楽しそうに振り返る。次に欲しいクルマはまったく思ひ浮かはない。そうだが、60歳や70歳になつても戸田さんと一緒にアメリカ車トーキーができる関係性をこれからも続けたいと語つてくれた。

トランクルームにはエアサスユニットを設置。リアフェンダー内にタイヤが隠れるほどの低さを実現しているが、いつでもノーマルに戻せるというコンセプトで戸田さんにカスタムをオーダー。もちろん戸田さんも快諾したのは言うまでもない。



タイヤ&ホイールは20インチに変更。リヤフェンダーはウイルウッドに変更して安全性を向上させており、現代のクルマとまったく変わらないフローリングでドライブできると安本さんは語る。

